

## グラフィックスカード(PY-VG348 / PYBVG348)

### (1) 概要

サーバ本体のグラフィックス機能を拡張することができる PCI Express バス対応グラフィックスカード NVIDIA® Quadro RTX™ 6000 です。本カードは、最新の NVIDIA Turing™ GPU アーキテクチャと 24GB の GDDR6 メモリを搭載し、CUDA コア、RT コアおよび Tensor コアといった多数のアプリケーション加速コアを持ち、パフォーマンス向上を実現します。



### (2) 特長

1. PCI スロット(PCI Express バス)に装着するカードで、サーバ本体の標準グラフィックス機能を拡張します。
2. NVIDIA 社製 Quadro RTX6000 を採用。
3. 本カードは、メモリ 24GB(GDDR6)を搭載、最大解像度 7680 × 4320/30bit color (Display Port)をサポートします。
4. 4 系統の DisplayPort1.4 コネクタに対応し最大画面出力をサポートします。  
(USB Type-C は未サポート)
5. RT コアのハードウェアレベルのレイトラッキング技術により、高度なリアルタイムなグラフィックス品質をリアルタイムでレンダリングできます。

**(3) 仕様**

項目	仕様
品名	グラフィックスカード
型名	PY-VG348 / PYBVG348
VRAM	24GB GDDR6
CUDA コア数	4608
NVIDIA Tensor コア数	576
NVIDIA RT コア数	72
GPU	Turing GPU
単精度浮動小数点演算	16.3 TFLOPS
最大解像度/色	7680 × 4320 / 30bit color (Display Port)
バス	PCI Express Gen3 x16
カードサイズ	幅: 266.7 mm 高さ: 111.15 mm 厚さ: 37 mm 1 スロットサイズ (ブラケット含まず)
コネクタ形状	DisplayPort1.4 × 4 USB Type-C × 1 (※1)
最大画面数	4 画面
適用機種、サポート OS	システム構成図参照
対応 API	OpenGL 4.6 / DirectX 12 / DirectX 11~8.1 / NVIDIA CUDA / DirectCompute 5.0 / OpenCL / Vulkan API
消費電力	260W (8pin+6pin 電源コネクタ必須) (※2)

(※1) 本コネクタは未サポートとなります。

(※2) 本カードの最大消費電力(USB Type-C 使用時)は 295W です。

#### (4) 留意事項

- ◆ 本製品をディスプレイに接続時は、リモートマネジメントコントローラアップグレードのグラフィカルコンソールリダイレクション機能(Advanced Video Redirection 機能)およびリモートストレージ機能は未サポートです。
- ◆ 本製品をディスプレイに接続時は、オンボードの VGA 出力端子は使用できません。オンボード VGA 端子にディスプレイ装置を繋いだ場合、ロゴ表示のみ表示されます。  
ただし、iRMC の Web 設定画面から出力設定変更することで、排他的にオンボード VGA 端子を使用することが出来ます。
- ◆ 本製品では最大解像度/色 7680 × 4320 /30bit color (Display Port)までをサポートしますが、表示可能な画面の解像度/色およびリフレッシュレートは、接続されるディスプレイやインストールされている OS の種類によって異なります。
- ◆ RX2540 M5 サーバ本体にて、以下の構成制限/留意事項があります。
- ◆ 既設サーバに搭載する場合、BIOS/ファームウェアのアップデートが必要な場合があります (BIOS 1.18.0 以降/FW 2.60P 以降必須)。適切な BIOS/ファームウェアの組合せで運用しない場合、予期しない動作をする場合があります。増設時には必ず BIOS/ファームウェア版数が最新版にアップデートされていることを確認してください。
- ◆ 本製品を PY-VG348(一般オプション) で購入された場合、2020 年 8 月以前に購入された RX2540M5 に搭載することができません。  
2020 年 8 月以降の RX2540M5 に搭載可能となります。

#### (5) 制限事項

本 GPU カードのディスプレイ出力とオンボードの VGA 出力を切り替える場合は、Advanced Video Redirection (AVR)のライセンスが必要です。

別途提供のディスプレイ切り替えツールでも切り替えることが可能です。

<http://azby.fmworld.net/app/customer/driversearch/ia/drviaindex>

以上